

3月6日(月)

口　　べ　　た

聖書朗読　　出エジプト 6：28～7：13

これがあなたがたのしなければならないことだ。互いに真実を語り、あなたがたの町囲みのうちで、真実と平和のさばきを行なえ。互いに心の中で悪を計るな。偽りの誓いを愛するな。これらはみな、わたしが憎むからだ。

ゼカリヤ 8：16～17

主がモーセにエジプトの王パロに告げよと仰せられた時、彼は最初嫌がりました。理由の一つはモーセは口べただからです。人が何かを言うと、時にはトラブルを招きます。一部だけの真実、ごまかし、罪のない嘘、作り話、これらは直接的な言い回しを避ける言い方です。真実をなかなか言わない人達が多くいます。中にはそれが習慣づいている人もいます。童話ピノキオの中で登場する少年が嘘をつく事を思い出してみましょう。ピノキオは人間の少年になりたくて大きな嘘をつくたびにその鼻が伸びるのです。

私が読んだ本の中で気になることが書いてありました。その著者は人が嘘をつく理由を六つ挙げていました。顔を立てるため、責任転嫁のため、対立を避けるため、我が道をゆくため、いい子になるため、気持ちよくなるためです。私たちが他人の言う事やメディアが放送する事をいつも信用できないのは不幸な事です。

蛇が嘘をついたのを覚えていますか。エデンの園でイブに善悪の知識の木から食べると善悪を知るようになると嘘を言いました。

私たちは神様が私たちにされたように、やさしく愛を持ってお互いに話しましょう。

聖　歌　　511

祈　り　　天のお父様。他人と話をする時にあなたの導きにより言葉を選ぶことが出来る様助けて下さい。

イエス様の御名前により。アーメン。

カーサ・ウインザー

カルフォルニア州　サンディエゴ

今日の力

2017年3月6日～3月12日

翻訳　　井　上　輝　彦

編集　　岩　田　欣　三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御　茶　の　水　キ　リ　ス　ト　の　教　会

3月7日（火）

罪は暴かれる

聖書朗読 民数記 32：1～27

しかし、もしそのようにしないなら、今や、あなたがたは主に対して罪を犯したのだ。あなたがたの罪の罰があることを思い知りなさい。

民数記 32：23

シートベルトを締めた後、彼女は無意識に車のコンソール部分に丸めてあった紙片を取り出しました。そして注意深くしわを伸ばして見ました。それは、アイスクリームショップでのコーンアイスクリームのレシートでした。私はしまったと思い、現行犯で逮捕された気持ちでした。

コーンアイスクリームを食べる事を罪と思わない私は、彼女に報告するものでもないと思っていました。健康志向食推進者、すなわち彼女から、「そんなに糖分を取ってはいけません」と言う反応が返ってくる事を知っていましたが、結局バレてしまいました。

神様に対して何かをしようと言った事でも出来ない事がよくあります。同時に私たちの過ち、権利の侵害や罪を隠し続ける事がいかに難しいことでしょう。今日の学びの中で、モーセはルベン族とガド族に警告しています。彼らが言った言葉を実行しなければ、それは隠し通せません。彼らの罪は暴かれます。

実際、これらの嘘は少なくとも神様の前では隠したままにはできません。そんなことをしようとしても無駄です。使徒ヨハネは言いました。『もし私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しいお方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。』（I ヨハネ 1：9）。罪を告白しましょう。どうせ隠し通せるものではありません。

讃美歌 493

祈り 慈悲深い神様。私たちの罪は余りのも多く隠しきれません。現実的に元へは戻せません。どうか私たちの告白を聞いて下さい。そして赦して下さい。イエス様の御名前により。アーメン。

クリス・フリッツエル
テキサス州 グランバリー

3月8日（水）

知られざるモーセの墓

聖書朗読 申命記 34章

イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

ヨハネ 11：25

ジョン・ワイズは、気球乗りの先駆者で、生涯で463回にもわたり大空に上がった人です。米国の郵便業の航空便配達はその業績の一つです。1879年9月彼が79歳の時、気球搭乗仲間のジョージ・パールと一緒に気球飛行中、ミシガン湖の上空で遭難しました。パール氏の死体は発見されましたがワイズ氏は発見されませんでした。

モーセは自分独特の葬られかたをするために山に登りました。これは偶然の出来事ではありません。神様がモーセの葬儀屋として働かれたのです。しかしそれに疑義をはさむものもありました（ユダ 1：9）。神様が埋葬の時間と場所を選ばれました。ジョン・ワイズのようにモーセの埋葬地は神のみぞ知っている事です。

モーセは後に人間の体をして、明らかに勇気づけの為に現れました。私たちはモーセが変容の山の上でイエスに何を言ったのかはわかりませんが、たくさん言いいたことがあったと想像します。三日目にイエスがよみがえられました。そうすることは、ジョン・ワイズやモーセを含むすべての人々にとってすべての墓は蘇りの日に空になることを確約しています。

讃美歌 第二編 190

祈り 天のお父様。私たちはイエス様の空の墓を畏敬の念を持って尊敬しています。この世に御子を送って下さり私たちによみがえりの希望を与えてくださったことに感謝します。

イエス様の御名により。アーメン。

ビル・アドコックス
オクラホマ州 ベサニー

3月9日（木）

私 の 家 で は

聖書朗読 ヨシュア 24:1～15

私と私の家とは、主に仕える。

ヨシュア 24:15

私の想像では、今日の家庭で最も多く額縁に納められたり、表示されている御言葉は今日の聖句だと思います。この筆者は「こうして主は言われた」との歴史的な言及の後、次のように締めくくっています。『あなたがたが仕えようと思うものを選べばよい。しかし私の家では主に仕える。』 私たちは生涯誰に仕えるかを選びます。この決定によって、家族に影響を及ぼし家族は同じことをするでしょう。親がはっきりとした価値観をもって、それを誠実に実行し、誠意を持って教えれば子どもたちは同じ信念を選ぶ可能性が高いのです。

私が読んで知っているところでは、もしあなたの価値観に固執しないなら、それらは価値観ではなく、趣味の領域です。神様に誠心誠意仕えると言う事は、趣味ではなく、日々の決定があなたやあなたの家族全体や何代にもわたって祝福をえるものです。よく言われることですが、先祖に対しては今から何もできませんが、子孫に対しては大いに影響を及ぼすことが出来ます。そうです、私の家にもこの御言葉を掲示しています。そして私たちは祝福されます。

讃美歌 502

祈 り 愛する主よ。私たちの生活の洞察力と理想を与える聖句をありがとうございます。私たちがあなたに仕える事を選択し、教え、範を示し、家族が同じように出来るようにしてください。

イエス様の御名前を通して。アーメン。

スーザン・K・ギボニー

カルフォルニア州 マリブ

3月10日（金）

信 仰 に 基 づ く 行 動

聖書朗読 ヨシュア 2:12～24

もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、また、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、あなたがたのうちだれかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分食べなさい」と言っても、もしかして必要な物を与えないなら、何の役に立つでしょう。 ヤコブ 2:15～16

ラハブがある日目覚めた時、スパイが家の中で隠れている事に気がしました。しかし彼女はそんな困難の中、勇気を奮った事は結局信仰の手本となりました。彼女がスパイと交わした会話で感心すべき部分は、彼女が人の身になって行動する人と言う事です。そんな中、彼女は「どうか私の家族を救ってください」と懇願しました。スパイ達は、躊躇なく彼女の要求以上に家の中に連れてきたすべての人と物とを救うと約束しました。

そして条件として、スパイ達を逃がすときに使用した赤い紐を窓につるすという事でした。興味深いのはこの紐の色が赤すなわち血の色だったことです。イスラエル人がエジプトを出るときに、入り口に血の目印をつけて天使が素通りするというこれらの旧約聖書の話は、十字架上で究極の代償として払われたイエスの血につながります。

リハブを信仰の仲介者として讃えましょう。私たちは、家族のため、必要な人と分かち合うための人になる様、この事例を日々思い起こしましょう。そうすれば豊かに祝福されるでしょう。

讃美歌 第二編 26

祈 り 愛する主よ。私の必要な事よりも他人の必要な事に思いを馳せ、思いやりを示すことが出来ますように。

イエス様の御名前によりお祈りします。アーメン。

ジェウェル・クラークストン

オクラホマ州 ノーマン

3月11日（土）

歩道上にいた神

聖書朗読 Iサムエル 3：1～14

生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。
それによって成長し、救いを得るためです。 Iペテロ 2：2

すがすがしい朝に歩道上を大股で歩いていると、多くの登校中の生徒に会います。「おはよう」とか「やあ」とか、私が声をかけると、ある生徒は答えてくれますが、大分部は無言で通り過ぎます。そして気づいたことは低学年の生徒はよく挨拶を返してくれますが、高学年は、なれなれしいこの大人に対して注意深く、疑い深いことです。顕著なことは一人であろうが、2人であろうが、彼らは物思いにふけっているのです、私が30年以上も教鞭をとっている事に気づいていないのです。彼らが宿題に途方に暮れ、機能不全の家族を持ち、他人と同じ行動をとる習性がある事、前向きな注目を浴びたいと言う願望等は理解しています。

今朝、ちょっと神様がどのように感じておられるかを考えて見ました。神様は私たちに語られ、時には私たちも答えます。神様は私たちの状況や困難さを理解されています。なりたてのキリスト者は毎日、より熱心に神様に話しかけます。

しかし以前に洗礼を受けたキリスト者の中にはわが父（神様）との関係を持つ事をしない人もいます。神様は、私たちが途方に暮れている事、機能不全の家族のようになっている事、他人からの同調圧力を感じている事、そして愛のある関心を望んでいることをご存知です。

もし私たちが神様に目を向け、その呼びかけに応えるなら、いつでも私たちを導びく為にそこに居られるでしょう。

聖歌 344

祈り すべての創造主である神様。私たちがあなたから遠ざかっていた事をお許しください。御言葉を求め、イエス様のように成長するよう導いて下さい。イエス様の御名により。アーメン。

ラニタ・ブラドレー・ボイド
ケンタッキー州 フォートトーマス

3月12日（日）

ゴリヤテの棘のある質問

聖書朗読 Iサムエル 17：1～11

ゴリヤテは立って、イスラエル人の陣に向かって叫んで言った。「おまえらは、なぜ、並んで出て来たのか」・・・彼が野営地に来ると、軍勢は時の声をあげて、陣地に出るところであった。 Iサムエル 17：8、20

ゴリヤテの言葉には驚きました。しかしそれははっきり見えるところのできごとでした。毎日イスラエル人は戦いの歓声を上げて戦いの準備の為に並んでいたのです。しかし彼らには真剣に戦う意思が無かったのです。

ばかげた行動だと思いませんか。たしかもう6週間もそんなことをしているのです。戦闘態勢をとり戦いの歓声をあげて進みながら、一方で戦う意思など無かったのです。彼らは代表戦士であるゴリヤテに恐れをなして、戦闘状態を引き起こすいかなる行動にも出なかったのです。

敵を滅ぼすことが出来ないと考えているのに、戦いを始めるのが怖い理由が分からないでもない。ならば戦う意思のないのに、なぜ戦闘態勢で構えて戦いの歓声をあげるのか。不思議です。

恐らく私たちも教会と言う安全な避難所に集まり、大声をだし、戦いの賛美歌を歌い、そして終わればランチに行き、家へ帰ればTVスポーツを観戦し、うたた寝をします。

羊飼いのダビデの登場に戻すと、彼はイスラエル人に恐れを捨て、神を思い起こせばどうなるかを示しました。さあ私たちも恐れを忘れて神様を思い起こしましょう。勝利は確実について来ます。

讃美歌 第二編 27

祈り 全知全能の神様。日ごろあなたの力や目的を考えずに過ごしている事をお許しください。私たちをまっすぐ導いて下さい。イエス様の御名により。アーメン。

パット・アンデュールー
テキサス州 アビリン